

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4272000235		
法人名	(有)慈恵会		
事業所名	グループホーム やすらぎの里		
所在地	長崎県対馬市美津島町根緒7番地8		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町村受理日	平成30年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成29年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設当初からの環境美化には継続して努めている。施設特有の臭いのない清潔な環境に整え、いつでも誰が来てすぐ、ご案内できるようスタッフ全員で心がけている。又、入居者の皆さんが安心、ゆったり、楽しく生活して頂く事で、ご家族が安心できる支援やサポートをスタッフ全員で取り組んでいる。そして、スタッフがとても明るく優しい、お互いを思いやる気持ちは自慢の一つでもあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は海を臨める場所にあり、毎朝職員が全居室のカーテンを開け、朝日を浴びることから入居者の一日が始まっている。事業所内は整理整頓が行き届き、気になる臭気がなく、職員の汚物処理の動線も検討し、衛生的な環境を保持している。職員は入居者一人ひとりをよく知り、理解することでその人に合った暮らしができるよう支援に努めている。資格取得者が多く、レベルの高い介護が行われており、職員全員で協力し合い、働きやすい職場環境を作り出している。運営推進会議での意見を運営に活かしたり、今年度、敬老会に家族を招待し一緒に祝ったり、次回の消防訓練に地区消防団の参加を予定するなど事業所を取り巻く周囲との連携にも努めている。職員が理念「感謝の心、奉仕の心、敬いの心」を実践することで、入居者の一日の穏やかな暮らしが窺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解共有し、スタッフ全員で日々入居者のケアに取り組んで実践に繋げている。	理念の「感謝の心、奉仕の心、敬いの心」は、玄関の目に付く箇所に掲示し、ホーム長は高齢者と接する際、大事なこととして理念を職員に都度伝えている。職員は入居者のプライバシーに配慮し、ドアをノックしひと声かけ居室に入室したり、敬語で話す等、理念を念頭に支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の気持ちや要望を尊重し、行きたい所や、お買い物等地域に出向いている。又ボランティアの受入等交流は持っていると 思う。	知的障害者の就業体験や中学生の福祉体験学習の受入れを行っており、体験後の学習発表会に出席している。敬老会やひな祭りにボランティアの慰問もある。近隣で火災が発生した際、地域住民や知人が駆けつけてくれた事例があり、地域の一員として認知されていることが窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、地域の人には活かしていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催は出来ていて、活発に意見交換が出来ている。施設から報告や意見、それについての質問など意義のある会議が出来ている。又情報を得る事でサービス向上にも繋がっている。	年6回規程のメンバーで実施している。会議では事業所内の状況報告の他、さまざまな助言や要望等を話し合っている。例えば、感染症対策について詳細を聞いたり、年間行事計画を作成したり、運営推進会議の議事録をメンバーに配布する等意見や要望をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員とは、連絡を取って実情など話す機会がある。又、事業所に必要な情報を得て交換する事でサービスや支援に活かしている。	市担当課とは認定更新時に入居者の状況を伝えたり、事業所指定更新申請で不明な点を教えてもらう等必要な情報を得ている。各担当課員の訪問があり、協力関係を築くよう努めている。行政から案内のある研修会に職員は参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいる事で、スタッフは正しい理解は出来ている。	事業所は拘束をしないケアに取り組んでいる。ベッド柵やセンサーマット等使用はなく、身体の傷等見つけた際には原因を追究し、ケア方法を見直している。言葉の拘束についても、抑止しない声の掛け方や大きさ等気をつけている。ただし、拘束に関する定期的な勉強会が行われていない。	職員の多くは介護福祉士の資格取得者であるが、言葉の他、拘束に関する事例等を基に勉強会を実施し、事業所全体で再確認することで更なる支援の向上に繋がることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等の研修が島内であれば参加はしている。スタッフ全員で注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等があれば参加は出来ている。話し合いを持ち必要と判断すれば活用する支援はできる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な話し合いを行い、利用者やご家族には納得、理解はして頂いていると思う。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会や訪問時に意見や要望等のお尋ねをしている。要望等があれば柔軟に対応は出来、又運営にも反映させるようにはできている。	契約時に苦情受付窓口や解決に関することを説明している。毎週訪れる島内の家族や遠方の家族も年2回は訪問している。電話で利用者の様子を知らせることも多い。家族から意見や要望は少なく、日々の様子に安心して感謝の言葉が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフミーティングで活発に色々な意見が出ている。管理者が入る事で内容によっては代表に報告し運営に反映させる事も出来ている。	毎月の会議では、利用者のケアの方法を検討しており、職員は活発に意見交換している。希望休は聞きながら反映しており、昼休みを1時間取ることで一日のメリハリを付け、仕事に集中できるよう配慮している。職員の声から乾燥機を購入しており、今期、血圧計を購入する予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表はスタッフの実績、努力を把握し各自向上心を持って働けるよう、職場環境や条件の整備に努めているといえる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等への積極的な参加を促し、自職へのスキルアップができるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流の機会を積極的に取り入れ、情報を得ている。意見を交換する事でサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、新規入居者に対する「気づきシート」を置いて、スタッフが各自、身体的、精神的に気付いた事を記入している。その人に合った安心したサービスが提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会の際や、状況報告の電話の際など、出来るだけご家族の方とお話しし、不安や要望等を聞き入れる事でより良い関係は築けていると思う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人が今必要な支援は何なのか、何が必要なのかスタッフ全体で見極めながらサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々一緒に生活をする事で、不安や、寂しさ、そして喜びや楽しみなどを共に共有し、同じ目線でのケアを心がけ良好な関係は構築できている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個々の情報を共有しながら、ご家族の方との絆を大切により良い関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	皆さんそれぞれの馴染みのお店や、美容院等外出の機会が持てるよう出来るだけ支援している。	利用者の生活歴は本人・家族から聞き取っている。趣味の裁縫に必要な糸の購入に出掛けたり、衣料品の買い物に行った際は、店の人が椅子を出してくれるなどいい関係がある。近所だった人の訪問や選挙の投票の依頼などがあり、利用者ごとに馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間の関係性や行動は、スタッフが把握しており、孤立しない配慮は心がけている。又状況に応じた場面作りも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終わっても、これまでの関係は良好に保てていて、面会に行ったり、ご家族の相談にも柔軟に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での行動や表情から思いをくみ取りながら対応出来ている。困難な方は、ご家族からの細かい情報を得る事で、出来る限りご本人本位の意向に添えるよう努力している。	新しい入居者には「気づきシート」を作成し、生活歴等を記録して支援に反映している。職員は利用者がリビングのソファに座っている時や居室にいる時など1対1になれる機会を見つけて、行きたい場所や食べたいものなど話を聞いている。「帰りたい」という声は記録し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関わっていたケアマネージャーの方や、ご家族、お知り合いの方等から細かい情報を得て全スタッフがそれを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の業務日誌や個々のケース記録等詳細に記録し、全スタッフは現状の状態は十分把握出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思の疎通の困難な方はご家族からの意見、要望を聞きながら、又意思疎通の可能な方はお話しする中から希望などを入れ計画し、又毎月のミーティングでスタッフの意見も取り入れながら作成している。	本人・家族の意見や要望を聞き、毎月のカンファレンスで職員の意見を取り入れ、長期短期の目標を立て計画を作成している。状態の変化があった際、ケース記録等基に随時会議を行い、現状に即した計画となるよう見直している。職員は計画を基にケアを行っているものの実践状況が記録からは分かりづらい。	計画に基づいたケアの実践のため、計画内容を意識した記録方法の検討が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的、精神的等細かく記録しており、スタッフ全員共有している。又プランの見直し等にも活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて柔軟なサービス提供や支援に取り組んでいるといえる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心して暮らせ、安全な生活が出来るようご本人の能力が発揮できるよう支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院やご家族の希望に沿った医療機関に定期的に通診している。状態の変化に応じ担当医、又提携の薬剤師等から適切な医療やアドバイスを受けている。とても良い関係は保たれている。	本人・家族の意向に沿い、かかりつけ医を継続受診している。基本的に職員が受診支援を行っており、家族が通院に同行するケースもある。往診はないが、担当医や薬剤師との連携もとれている。受診内容は受診ノートに記録し、職員間で共有している。緊急時の対応も職員は理解しており、適切な医療を受けられるよう支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設は看護師の雇用はしていないが、受診の際の個別ノートに介助者が詳細に記録し、どのスタッフが同行しても状態が把握できるようにしている。適切な受診はできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には細かい情報(ケアパス)を提供している。早期に退院できるように、情報交換は密にできていて良好な関係は保っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や週末期の在り方については、入所時にご家族に細かく説明はしている。施設で出来る限りの事は尽くし、関係者の方と共に支援に取り組んでいる。	事業所はターミナルケアを行わない旨を重要事項説明書に明記しており、入居時に家族に説明している。段階に応じて、医師と話し合い、判断してもらっており、家族に説明している。家族の納得を得て、転居先について事業所でする限りの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	応急対応や、緊急時の対処等、消防訓練にて講習を受けている。実践力は身につけていると思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の消防避難訓練を実施している。避難、消火等は身につけている。又地域との協力体制については、この冬の訓練には地区の消防団に参加して頂くよう働きかけているので、できるだけ実現したいと思っている。	年2回消防訓練を実施しており、初期消火・通報・避難誘導等を行っている。これまで地域消防団の訓練参加はなかったが、今年度11月に実現する運びとなっている。従来の避難場所に加え別の場所も検討している。備蓄品については食料・飲料水等確保しているが、非常時持ち出し品の整備はこれからである。	入居者の情報等含め、非常時持ち出し品の検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おひとりお一人の尊厳が一番大切な事と全スタッフ認識しており、排泄や更衣等の介助、又声掛け等プライバシーに配慮する対応をしている。	利用者の尊厳を重視し、基本的には敬語で会話し、居室にはノックし声掛けして入室している。また、羞恥心に配慮し、オムツやパッドは見えないところに収納しており、失敗時にはさりげなく職員同士が連携して対応している。ホーム便りの写真掲載は家族に同意を得ており、職員は守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面でご本人が表現できたり、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた生活が出来るよう、希望に沿った支援は出来ていると思う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方はご自分で衣服の選択をして頂いたり、相談したりして、自分らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人に合った、食事形態であったり、季節の風習の物や、希望を取り入れたりして楽しみが持てる食事になっていると思う。又能力に応じての配膳、下膳の支援も行っている。	献立は一週間ごとに職員が作成しており、毎日交代で調理している。行事の際には仕出しを取ったり、花見に弁当を持って行ったり、正月はお屠蘇、雑煮、お節料理で祝宴を催している。旬の食材を使った家庭料理は利用者の楽しみであり、ミキサー食なども提供して、職員は食事の時間が楽しくなるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた水分量や摂取量は全スタッフ把握しており十分に確保出来ていると思う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	開設当初から最も力を入れて取り組んでいる事であり、お一人おひとりに合わせた支援は出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄記録で、個々の排泄パターンは把握しており、その人に合った声掛けや誘導を行う事で、自立に向けた支援を行っている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレへ誘導したり、オムツチェックと体位交換している。病状の進行で、トイレでの排泄が難しくなっているが、工夫してトイレでの排泄の自立支援を行っている。ポータブルトイレ使用は夜間のみのため、日中は見えないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便出来るよう、毎日の乳製品や繊維の多い食材を使用したりして、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴は楽しみの場でもある。誰一人拒否される方はいない。お話しや歌など浴槽でゆっくり入られる支援はできている。	週に3回、入浴を支援している。車椅子の利用者の中でも座位が保てない場合はシャワーチェアを使用し足浴も合わせながら入浴し、入浴後の保湿にも配慮している。季節のゆず湯や入浴剤を入れたり、化粧水や乳液などは本人の好みに合わせるなど、入浴が楽しくなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣や状況に応じた対応をしている。午後の休養はお部屋でゆっくり横になって休息して頂いて、安心した睡眠がとれるような支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の処方箋ファイルがあり全スタッフ何時でも確認できるようになっている。お薬の変更や症状等細かに記録があり変化の確認も出来ている。又薬剤師にも相談できる体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせたお手伝い等、役割を持つ事で気分転換や生きがいを持つよう支援は出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分や天候で庭の散策や、買い物等気分転換が出来よう支援している。又ご家族の方と外出が出来よう支援している。	日頃から職員と利用者が外に出て洗濯物を干したり、一緒に買い物に出掛けている。朝には朝日を浴びて一日元気に過ごせるように、居室のカーテンを開けて朝日を取り込んでいる。病院受診のあとにドライブや買い物したり、みんなで神社の祭りに出掛けるなど、普段の暮らしが見える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はされている方はおられません が、買い物の際など場面によって使えるよう 支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備には特にスタッフ全員気を付けている事であり、不快な臭いが出ないように細心の注意している。音や光にも配慮して皆さんが居心地よく過ごして頂けるよう心掛けている。	事業所内は職員が分担し毎日清掃しており、特に台所は次亜塩素酸で清潔を保っているため、気になる臭気はない。リビングは明るく開放的であり、入居者はソファやテーブルセットで寛いでいる。隣接する台所から調理風景や匂いが漂い、家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの共有スペースでTV観たり、お話ししたりして過ごされている。又入居者同士お部屋で過ごしたりして居場所の工夫はできている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さん馴染の家具や使い慣れた日用品等持参して頂き、居心地よく過ごして頂くよう支援している。	全居室ともカーテンを開けると海を眺めることができ、日の出を拝む入居者もあり、一日の始まりを感じることができる。家族写真や使い慣れた家具や小物等持込は自由であり、自作の手芸品で囲まれた居室もある。職員は毎日清掃・換気を行っており、入居者が居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱されないよう、分かりやすい案内紙等を貼って、安全で自立した生活が出来るよう工夫している		